

昭和3年(1928)春日奥山周遊自動車道路が完成

遊歩道として既に整備されていた道路を格上げする形で、昭和3年には「春日奥山ドライブウェイ」営業を開始しました。

翌4年(1929)から春日山周遊不定期遊覧自動車が開始された。

昭和30年に新若草山ドライブウェイが開通。昭和35年に万葉ドライブウェイが開通し春日山周遊道路と接続。現在の奈良奥山ドライブウェイになる。



春日周遊道路と遊覧自動車 昭和4年頃

写真提供：奈良交通株式会社

昭和4年（1929）吉野山ロープウェイ開通

機械遺産

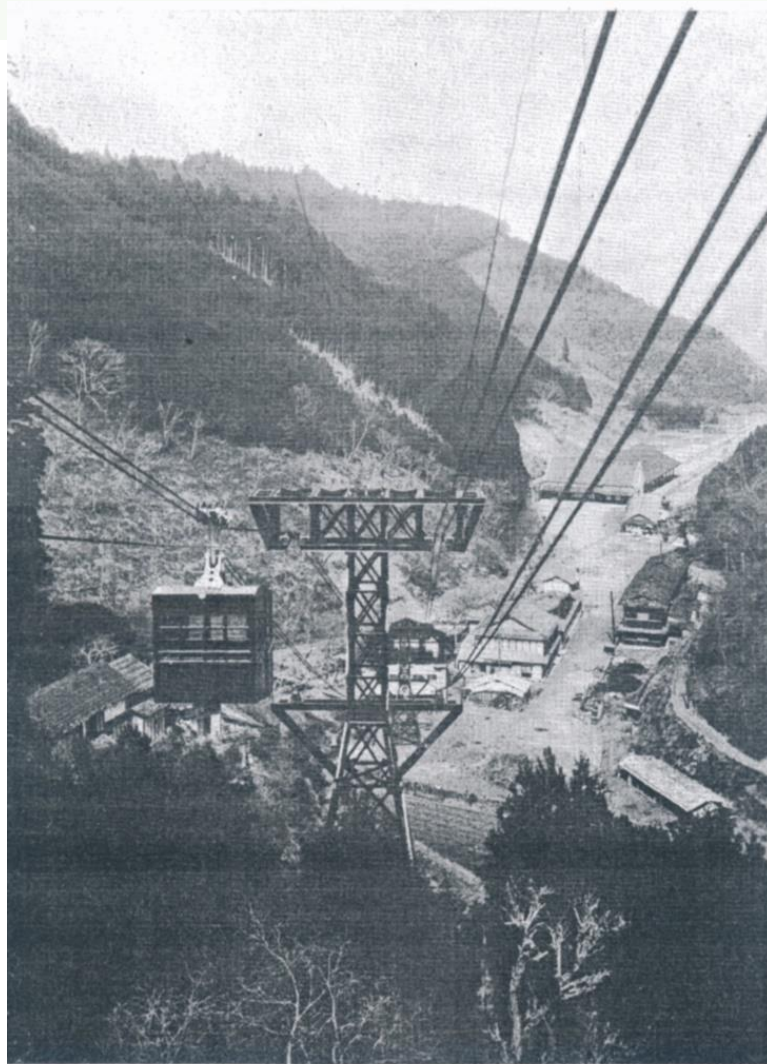
現存する日本最古の索道路線。

昭和4年、株式会社安全索道商会在建設。吉野山千本口～吉野山間開通したロープウェイで、現存する日本最古の索道路線です。

第二次世界大戦中は鉄材供出要請がありロープウェイ業を廃止するところが多い中、生き残ることができた。

吉野大峯ケーブル自動車が運営。

平成24年（2012）機械遺産に認定。



開通当時の吉野山ロープウェイ

写真提供：安全索道株式会社



昭和32年頃 写真提供：成瀬匡章氏



現在写真提供：吉野大峯ケーブル自動車株式会社

昭和4年(1929)奈良地方競馬開始

昭和4年(1929)10月 尼ヶ辻競馬場(生駒郡都跡村)で第一回奈良地方競馬を開始。(走路1000m)

昭和14年(1939)秋篠競馬場へ移転(走路1600mへ延長)。

昭和18年頃から戦時中の間中止。昭和21年(1946)9月再開。

昭和25年(1950)運営休止。昭和29年(1954)廃場。



尼ヶ辻競馬場

昭和13年頃作成「全国地方競馬場写真帖」写真：帝国馬匹協会

秋篠競馬場 昭和23年(1948)航空写真

国土地理院ウェブサイト



走路



スタンド

昭和4年(1929)生駒山上遊園地・飛行塔開園

近代化遺産

昭和4年に生駒索道鉄道が生駒山頂に延伸し、生駒山上遊園地・飛行塔が開園した。

飛行塔は土井万蔵設計で、現存する大型遊具では国内で最も古いものです。当初はエレベータ付きの展望台付き。第二次大戦中は防空監視所として利用され金属供出・解体を免れた。

令和3年土木学会選奨土木遺産に認定された。

園内には飛行塔の南に昭和25年(1950)在阪テレビ局の送信所(アンテナ)が建設された。



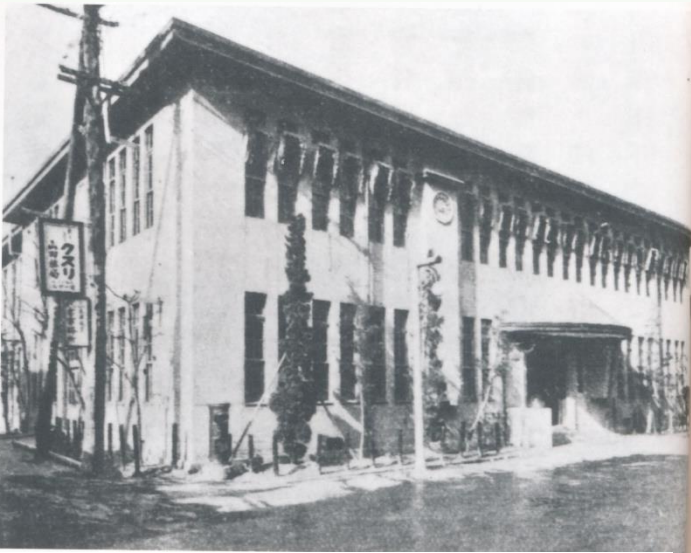
昭和29年頃の飛行塔

写真提供：奈良市きたまち転害門観光案内所

昭和4年(1929)奈良市庁舎改築竣工

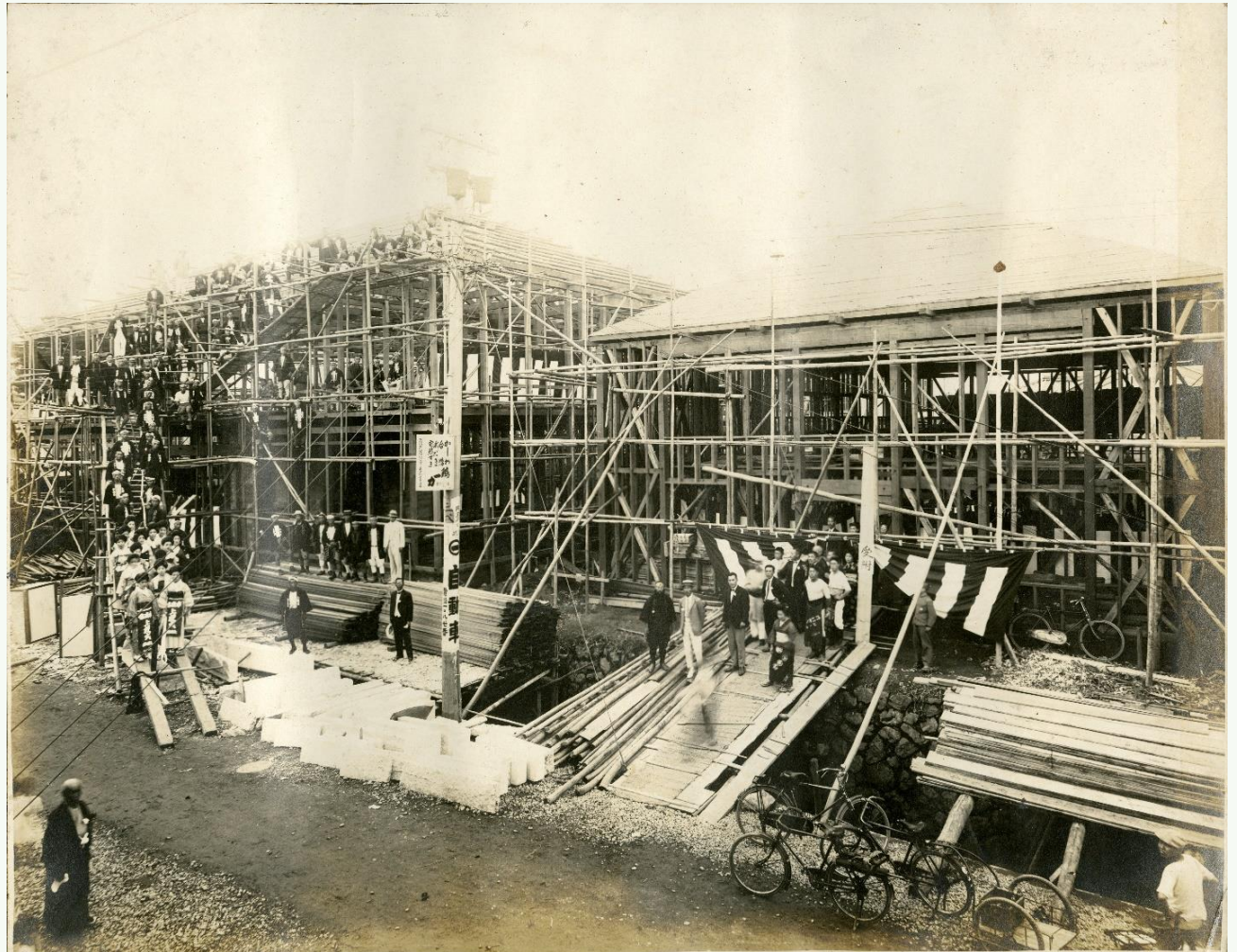
奈良市庁舎は老朽化がひどく手狭になったため、昭和4年、木造2階建ての庁舎と議事堂を改装した。4月に改装工事が始まり12月竣工した。

(後、昭和23年焼失)



昭和4年建設の市庁舎

写真：「グラフ奈良市政80年の歩み」より



奈良市庁舎建設中 上棟式 (昭和4年)

手前の川は尾花谷川で暗渠となった。

写真提供：飛鳥小学校

昭和5年(1930)日本聖公会 奈良基督教会建築

近代化遺産

旧興福寺境内であるこの地に基督教会が建つ。周囲の景観に溶け込んだ和風教会。

和風欄間の向こうに聖所。館内にパイプオルガンがある。

写真：平成19年(2007)河本 勝氏



瓦屋根の上に十字架 奥に興福寺の塔

和風欄間の向こうに聖所

昭和5年(1930)「奈良連隊」歩兵第38連隊 満州警備のため奈良兵営出發

通称「奈良連隊」は明治40年創設され、昭和戦前期まで奈良市高畑の現奈良教育大学キャンパスの場所に存在した。

大正14年歩兵第38連隊は奈良市高畑の歩兵第53連隊兵営に転営した。昭和4年から、満州の長春及びチチハルに駐屯し警備にあたる。昭和12年日中戦争勃発し北支に派遣。天津、台連経て南京へ。昭和14年奈良に帰還。

昭和16年、関東軍隷下の第29師団に編合され満州遼陽に移駐、昭和19年第29師団は南方マリアナ方面へ派遣、グアム島に上陸したが米軍と激戦し玉砕。



昭和5年1月満州警備ノ為奈良兵営出發

写真：奈良県立図書情報館蔵

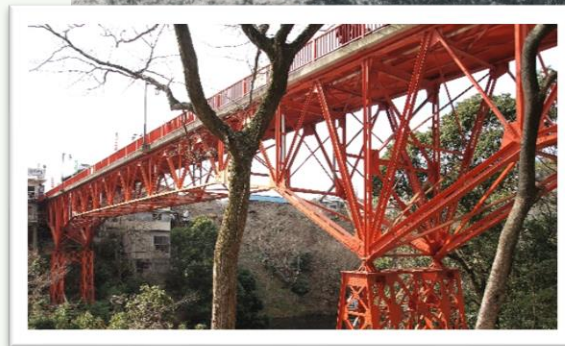
昭和6年(1931)信貴山 開運橋開通

国登録有形文化財

信貴山朝護孫子寺への参道にある橋。トレスル橋脚を用いたカンチレバー式(片持ち梁式)橋梁。橋桁の重みを利用したてこの原理で中央部を支える構造。

本方式で国内最古で土木史上貴重な近代化遺産で2007年国の登録有形文化財になった。

トレスル橋：架台に橋桁を乗せた構造の橋。



写真：Wikipedia

写真：開運橋遠望 昭和6年頃

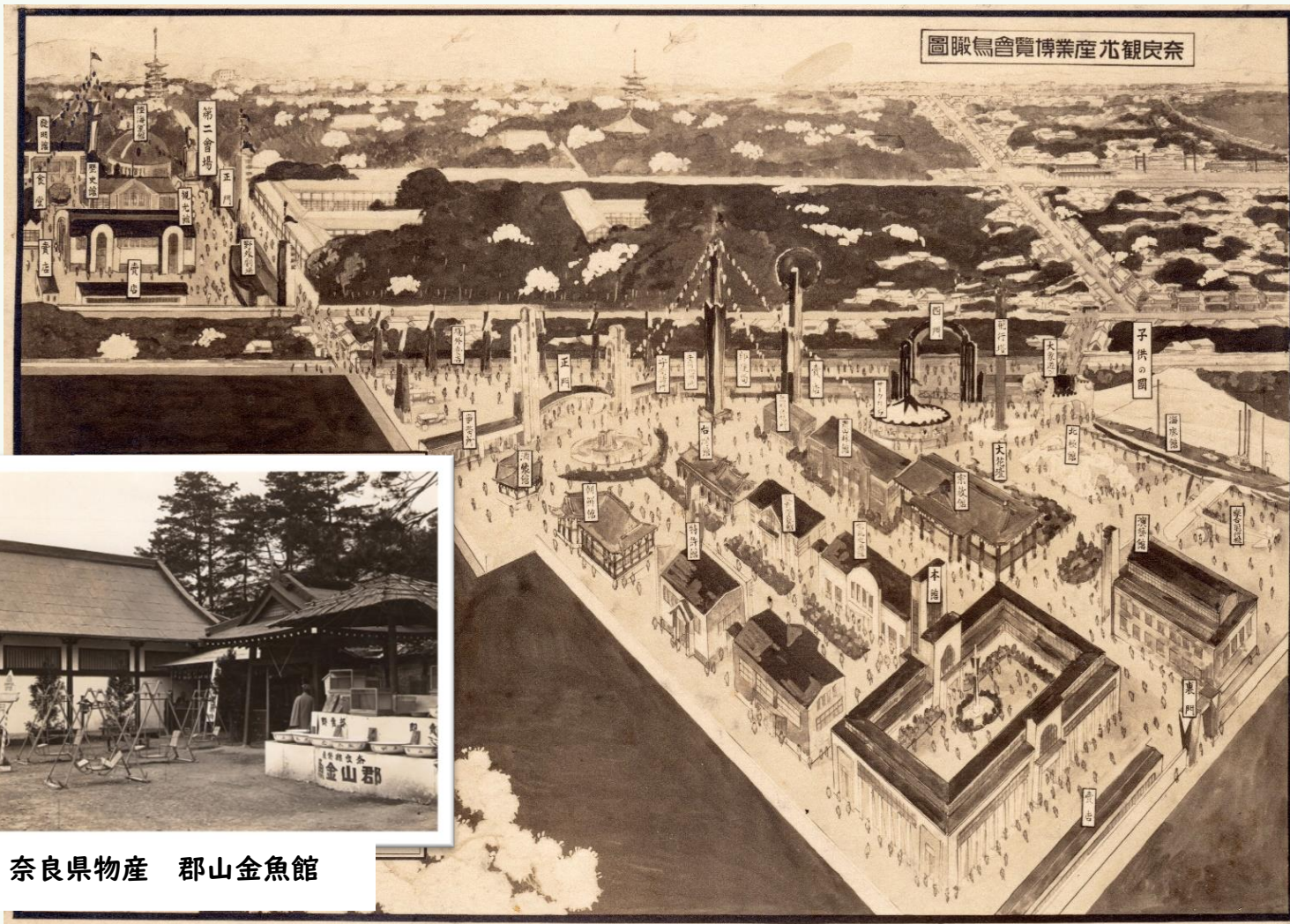
奈良県立図書情報館蔵

昭和 8 年 (1933) 3 月 20 日

奈良市制 35 周年 観光産業博覧会

明治 6 年から明治 26 年まで開かれていた博覧会は以後中断していた。市制 35 年を記念して観光産業博覧会が開催された。

笹鉾・登大路・京終駅前の三会場で開かれた。時局を反映し軍事啓蒙色が強かった。



奈良県物産 郡山金魚館

奈良観光産業博覧会鳥瞰図

写真提供：谷井孝次氏

昭和9年（1934）JR奈良駅旧駅舎が建設 （現奈良市総合観光案内所）

近代化遺産

コンクリート造りで日本趣味の洋風建築。屋上に相輪様のものが設置。

3年前には満州事変が勃発し国粹主義の傾向を強め日本趣味の建築が流行した。

この駅舎は長らく奈良の玄関口として活用されることになり、和洋折衷の独特の駅舎は2003年に高架化工事が開始されるまで使用され続けました。

その後建屋を移動して奈良市総合観光案内所として利用されている。



昭和10年頃の国鉄駅舎

写真：「奈良市史」より

昭和14年(1939)頃 [木炭バス・薪バス]

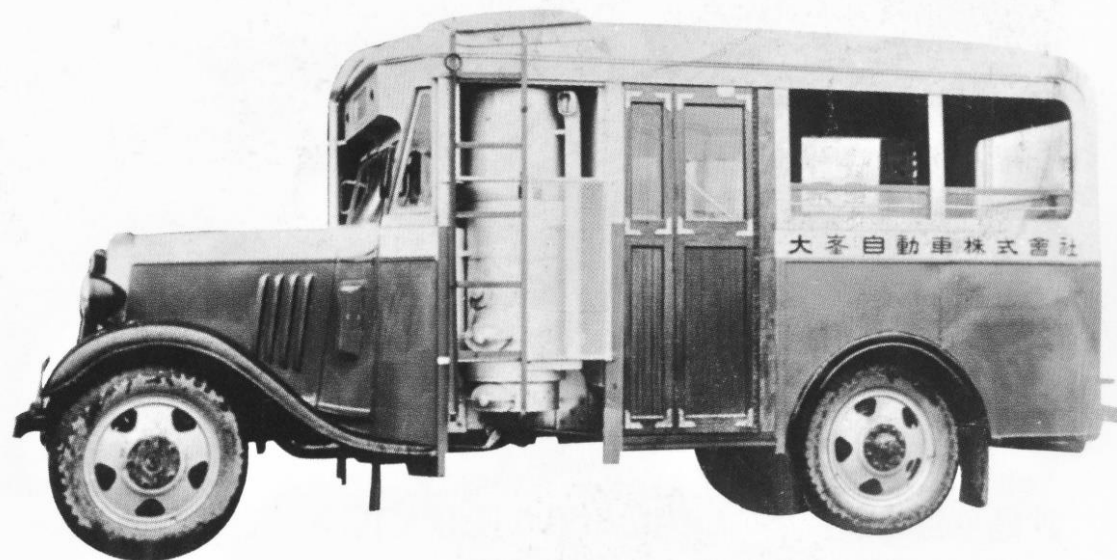
戦争機運が高まり代替え燃料自動車に

第一次世界大戦中の1910年代から第二次世界大戦終結直後の1940年代にかけて、正規の液体燃料の供給事情悪化し、木炭や薪を燃料とした木炭バス・薪バスが走った。



昭和14年 木炭バス

写真：奈良交通株式会社



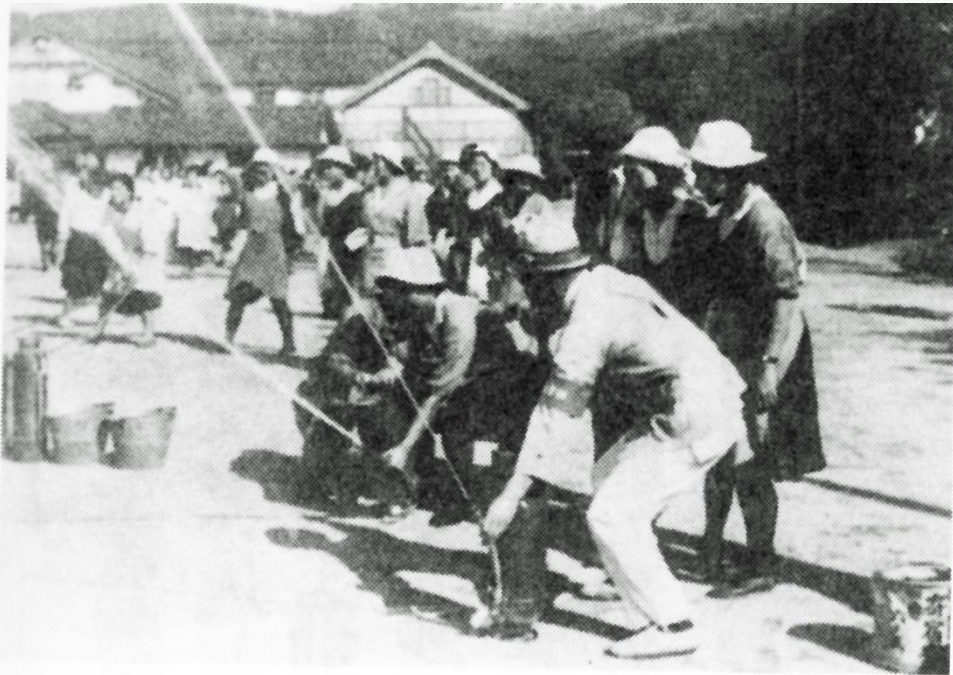
薪ガス発生炉を取り付けた大峯自動車のバス。

昭和16年にガソリン規制により薪ガスなどの代用燃料で運行。

写真：奈良交通株式会社

昭和15年(1940)
太平洋戦争はじまる。

防空壕を造る町内の人々
(鳴川町)



奈良女高師の防空演習(昭和15年)

写真:「奈良市史」より



写真:市制100周年記念要覧「奈良」より

国鉄奈良駅前での 空襲演習風景



空襲に備えて、各町では灯火管制・防火などの訓練をたびたびおこなった。

写真：「グラフ奈良市政 80 年の歩み」より

昭和 19 年 (1944) 学校も軍需品工場



市立奈良高等女学校

昭和 19 年になると中等学校 3 年生以上の学徒動員が本格化。学校も工場のように軍需品をつくった。

写真：市制 100 周年記念要覧「奈良」より